

## 平成25年度業務実績報告書に係る事前質疑一覧

頁	H25年度 計画番号	委員	質問事項	札幌医科大学回答
3	総括実績	谷山委員	「北海道医療枠」について、入学者の学力について等の課題があるかと考えるが、見解を教えてください。	北海道医療枠志望者の方が一般枠志望者と比較してセンター試験と2次試験の得点を合わせた総合点が高い傾向にあり、35名から55名に定員を増やした平成26年度入試においても同様の傾向であることから、北海道医療枠入学者の学力について特に課題はないものと考えます。 また、6年間の医学教育カリキュラムは「北海道医療枠」「一般入試」などの入学枠に関わらず全員同一であり、教育上、いかなる差も設けていません。 なお、卒後一定期間、本学及び道内の医療機関において医学・医療に従事することを確約していることから、6年間の在学期間を通して地域医療への貢献について意識付けしていくことや、しっかりとした卒後のキャリア形成プログラムを準備することが必要と考えています。
11	3	和田委員	冊子「札幌医科大学北海道医療枠卒業必修プログラム～北海道の医療を担う医師を養成するために」の内容を教えてください。	入試制度の改革により「北海道医療枠」「特別推薦枠」の学生が年々増加していますが、それぞれ卒後道内で医療に従事する一定の義務年限があり、その中で自分のキャリアをどのように形成していけばよいのか、専門医を取得したり、大学院に進学して研究を行うことはできるのかなど、彼らが抱えている様々な不安や疑問を解消し、自らの将来のキャリアを考える一助となるよう、この冊子を作成しました。 内容は、「北海道医療枠」「特別推薦枠」の卒後キャリア形成プログラムを解説したものであり、初期臨床研修後に専門医・研究医を目指す者を対象に、講座ごとにコースの概略と9年間の研修のモデルケース、学外の指導體制、専門医の資格要件などを掲載しています。
22	19	舟橋委員	保健医療総論1と2に関する記述のカッコ書きに(4月の第2週に実施)とありますが、これが平成25年4月を言うのであれば、25年度の年度計画には馴染まなかったではありませんか。	「保健医療総論1～4」は、学年毎に実施している3学科合同授業で、新カリキュラム適用に伴い、各科目の学習内容を段階的に変更し実施しているところです。 「保健医療総論1」については、検証結果に基づいた学習内容で実施するという計画に対し、平成24年度に検証作業を行い作成した学習要項及び指導要領に基づき、平成25年4月に実施しました。 「保健医療総論2」については、新たな学習プログラムを新たな実習施設を加えて開講するという計画に対し、新しく16の実習施設を加えて平成25年4月に実施しました。 なお、「保健医療総論3」については、25年度に学習プログラムを立案し、学習要項及び指導要領を完成させたところです。
18	14	和田委員	大学院MD.PhDコースの内容を教えてください。	MD.PhDコースは、将来の基礎医学研究者、教育者育成を目的としたプログラムです。医学部2年生以上を対象とし、学部教育を受けながら基礎医学に関する講座・部門等に所属し、大学院医学研究科の指導教授から研究指導を受けることができます。学部卒業までの研究期間は、大学院博士課程1年次に相当し、卒業後は、大学院博士課程2年から開始するシステムで、早期から大学院教育を受けることができるほか、学会において研究発表の機会を得られるなどの研究支援制度が整備されています。

頁	H25年度 計画番号	委員	質問事項	札幌医科大学回答
19	15	舟橋委員	「主な課題として、期間や配属人数の妥当性、MDPhDコースとのつながりを強化する方策等」について、もう少し具体的に説明して下さい。また12月までに何か活動がありましたでしょうか。	<p>・期間については、現在4週間ですが、もう少し長いほうがよいとの意見があり、配属人数については、講座によって受入人数が異なり、教員1人が受け持つ学生数も一定ではありませんが、指導上は教員1人が学生2～3名を受け持つのがよいのではないかなどの意見がアンケート調査で出されています。</p> <p>・MDPhDコースとのつながりの強化については、現在は基礎配属と同時期にMDPhDコースの受験が行われていますが、例えば基礎配属後にMDPhDコースの講座を選択できるようなスケジュールを組むなど、基礎配属で基礎医学に興味を持った学生をMDPhDコースに導くことが効果的ではないかとの意見がありました。</p> <p>・なお、12月までの実績については、7月に実施した「アドバイザー面談」において、基礎配属を討論のテーマの1つとし、学生からの意見について8月の医学部教務委員会で報告しました。また、12月には医学部基礎教授会(任意の組織)において、基礎配属に関するアンケート調査を実施することを協議し、26年1月にアンケートを実施しました。 (注)アドバイザー制:各学年1～2名、計12名の学生グループに教員2名をアドバイザーとして配置し、将来に対するアドバイスなどを行う医学部の学生支援制度です。年に1度、グループ全員と教員で面談を行います。</p>
20	17	和田委員	「CPC・病理示説」と中期計画(学生の問題解決能力の向上)との関係を教えてください。	<p>「CPC・病理示説」は、学生が主体となって臨床病理討論会を実施する授業科目であり、症例として与えられた臨床経過から患者の病態を推定し、病理所見と対比して疾患の発生機序を考察し、診断、治療の適否を評価して、疾病の理論を学び、診断に至る思考過程を身につけるものであることから、学生の問題解決能力の向上に役立つ科目です。</p>
		舟橋委員	「主な課題として、教育方法や指導体制の見直し、学習内容(教材)の見直し、学生の問題解決能力を育成するための方策等」について、もう少し具体的に説明して下さい。また12月までに何か活動はありましたでしょうか。	<p>・教育方法や指導体制の見直しについては、現在1グループの学生数が約20名と多いため、適切な指導が行き届かない、グループの中心となる一部の学生だけが積極的に取り組んでいるなどの問題点があり、これに対してアンケートでは、より少人数のPBLチュートリアル形式を導入するなどの意見が出されました。また、疾患に対する臨床と基礎的見地両面からの講義、複数の診療科が関与する疾患についての講義など、総合講義的な要素の導入についても意見が出されました。</p> <p>・学習内容(教材)の見直しについては、剖検数が減少傾向にあるという現状を踏まえて、アンケートでは、教材に手術症例も入れる、最新年度のものにこだわらず教育的な症例をプールして繰り返し使用する、などの意見が出されました。</p> <p>・学生の問題解決能力を育成するための方策については、PBLチュートリアル形式を取り入れることにより、少人数でディスカッションし、学生全員が参加するようにする、4～6学年など複数の学年による合同授業として、上級学年に課題の作成や解説を担当させるなどの意見がアンケートで出されました。</p> <p>・なお、12月までの実績については、7月に実施した「アドバイザー面談」において、CPCを討論のテーマの1つとし、学生からの意見については8月の医学部教務委員会で報告しました。12月には医学部長・教務委員長がCPCに関するアンケート調査の項目について協議し、1月に調査を実施しました。</p>
23	22	和田委員	OSCEの内容を教えてください。	<p>OSCE(客観的能力試験)は、臨床実習に進むための臨床能力(臨床実技)を客観的に評価するために開発された試験で、模擬患者を設定した医療面接や技能試験を試験官が評価し合否判定を行います。</p> <p>なお、技術到達度評価は、学生が苦手とする分野の克服を目的として行います。学生一人一人の技術の到達度合いを見極め、技術向上を目指し個々の課題を把握するために実施しています。</p>

頁	H25年度 計画番号	委員	質問事項	札幌医科大学回答
26	27	舟橋委員	年度計画が「履修基準を適用する」で、結果が「履修基準を適用した」という事ですが「適用しない」という選択肢はあり得たのでしょうか。必ず適用するのであれば、年度評価の対象となる計画には相応しくないと思うのですが。	平成25年度に適用した新規履修基準は、社会人など多様な履修状況にある大学院生に配慮し、個々の院生それぞれに応じた柔軟な単位取得方法を選択・設定できることが特徴です。そのために教員による学生一人一人へのきめ細かい履修指導により単位認定を行うなど、適切な運用を行ったところです。
29	30	舟橋委員	平成26年度の年度計画についての質問ですが、既に3月に「推進検討委員会」の設置が決定していますので、26年度はこの組織をどの程度まで運営するのか、イメージがありましたら教えて下さい。	今年度改編した教養科目について、履修者数や学生による授業評価の結果に基づき効果を検証し、次年度以降の教育プログラム構築に反映していきます。また、これらの検証に基づき必要な教員の配置等についても検討することとしています。
32	37	舟橋委員	特に学生から要望が多かった出欠閲覧機能の学生限定外部アクセスに関する規程の整備が未了でも、年度計画に言う「本格稼働」と言えるのですか。	学生サポートシステムについては、教員及び学生が利用する「学生カルテ閲覧機能」、「出欠管理機能」、「成績管理機能」、「履修登録機能」、「インフォメーション機能」、「シラバス編集機能」の主要機能について、平成25年度に本格稼働しました。 なお、学生から要望の高かった学外からのアクセスについては、別途オプションとして「出欠席情報閲覧」について平成26年度に導入することとし、平成25年度中にシステム上のセキュリティを確保したところです。
36	44	舟橋委員	自己点検の記述にあります「公表のひな型」を簡単に教えてもらうことは出来ますか。また、研究内容をHPで公表したとありますが、年度計画に言う「講座間で関連する研究内容の情報共有」の進捗状況を教えて下さい。	講座ごとに「主な研究内容」と、米国国立医学図書館内の国立生物科学情報センターが作成している医学文献データベース(PubMed)から検索した、2013年分の「PubMed掲載論文」を整理し、公表のひな型として作成しました。平成26年3月14日に医学部の全54講座中50講座の研究内容をホームページに公表し、アクセス数は26年6月末までに約2,400件です(1ヶ月あたり960件程度のアクセス)。
		和田委員	これらの決定が学内のどのような組織で行われたのかを教えてください。	医学研究科教務委員会(H25.11.20開催)にて決定しました。
36	45	和田委員	これらの決定が学内のどのような組織で行われたのかを教えてください。	医学研究科委員会(H25.10.24開催)にて決定しました。
37	46	舟橋委員	若手研究者の最優秀論文賞に関する他大学の状況はどのようなものでしたか。	他大学調査の結果、北海道大学や弘前大学等、国立6大学の医学研究科で若手研究者を対象とした表彰制度を運用していました。6大学の状況は次のとおりです。 ・表彰は年1回、2～3月に実施している大学がほとんどである。 ・対象者としては、大学院生に限定している大学、大学院生に研究生等を加えている大学、教員を含めた研究者を対象としている大学の3パターンである。 ・審査対象としては、前年発表されたもののほか、2年前までに発表されたものを対象としている大学もある。 ・表彰の副賞として、図書券の他、研究支援費(10～50万円程度)を支給している大学もある。
37	47	舟橋委員	「著名な研究者による講演会」は1回限りのものですか、継続開催を予定しているのですか。何年度に(又は何年度から)開催する予定ですか。決定事項としては「全国規模の学会において特別講演を行う者」を推薦してもらう事以外に、どのようなことがありますか。	平成25年度は、著名な研究者による講演会の開催方法等の課題を検討しており、講演会の開催回数や時期等については平成26年度中に検討することとしています。ただし、複数年度にわたる調整が必要であることから、全学的な記念式典にあわせて開催する方向で検討します。
41	56	和田委員	S評価の理由を教えてください。	病院施設改修等については、厳しい財政状況下ではあるが、当院だけでは対応できない状況が続いていたMRI検査の待ち時間の短縮や、患者の利便性を図ることを目的として、3台であったMRIを5台に増設整備を行ったことをはじめとして、環境改善に取り組んだことからS評価としたものです。
41	56	舟橋委員	自己評価をSとした決定的な理由は何ですか。	

頁	H25年度 計画番号	委員	質問事項	札幌医科大学回答
41	57	和田委員	スタットコール、MET、侵襲的検査措置の医療安全体制との関係について説明してください。	医療安全管理体制の充実を図るために重要な項目としては、①目標設定、②人員の配置、③組織体制の整備、④指針・マニュアルの整備、⑤報告制度があげられます。 スタットコール及びMETコールについては、急変時の対応の遅れは患者の生命や予後に大きな影響を及ぼすものであることから、③及び④に係る対応の一つとして、その整備充実を図ったものです。 また、侵襲的検査・処置の誤認防止については、これまでも当該検査等の際に確認行為を行っていましたが、手順等の明文化がされていなかったことから、医療事故防止対策委員会の中にWGを設置し、チェックリストの作成及びマニュアルを整備して、取り組みの強化を図ったところであります(上記④に係る対応)。
41	58	和田委員	S評価の理由を教えてください。	「遺伝相談・カウンセリング体制の構築・実施に向けた検討、課題整理」という計画に対し、4月に遺伝子診療外来開設準備委員会を設置して検討を行い11月から「臨床遺伝外来」として外来診療の開始にまで至り、計画を上回ったことからS評価としました。
50	78	舟橋委員 和田委員	医師の常駐化に向けた取組を進めるという年度計画に対して、江差病院の医師の常駐化を実現しましたが、S評価とした理由は何ですか。	「産科周産期・循環器に係る医師の地域医療機関への継続的な派遣・常駐化に向けた取組」について、道立江差病院への産科周産期医師の継続的な派遣に取り組んできたところ です。 道内の二次医療圏の中で唯一分娩体制が整備されていない南檜山医療圏における分娩体制の再開という道や地域からの要請に応え、優先的に取組を進め、「常駐化に向けた取組を進める」との計画を上回り、本学においても産科・周産期医師の確保に苦慮している中、3月から常駐化が実現できたことからS評価としたものです。
51	81	和田委員	地域医療連携部門の組織的な位置づけ(学内のどの組織の部門なのか)について教えてください。	H17年4月に病院事務部の患者サービスセンター内に地域医療連携室を併置(要綱設置)し、他院からの新患外来予約の受付のみを行ってきました。 H20年6月に看護部より看護師長1名が派遣され退院調整を行ってきました。 H25年4月には、患者サービスセンターと地域医療連携室を統合し病院事務部から病院長の指揮下にある「中央部門」に配置換えをし、他の医療機関との連携機能の拡充、退院調整機能の拡充等のため医療連携・総合相談センターが設置され、医療連携と退院支援係が地域医療連携部門として位置づけられているところです。 ※組織図は別紙のとおり
61	97	和田委員	経営審議会において学外委員会からどのような意見が出され、それについて大学がどのような対応をしたのかを教えてください。	経営審議会においては、中間決算、決算見込み及び予算案、決算の各段階における経営状況を報告し、審議を行っていただいております。 なお、その中での学外委員からの主な意見としては、第2期に繰り越す積立金の活用方法や平成26年度予算(案)において、病院収入の見込み方などの発言があり、それぞれ説明を行い、理解を得たところであります。 (詳細は別紙参照)
61	98	和田委員	役員懇談会における懇談の内容、役員のマネジメントにどのように生かされているのか教えてください。	役員会懇談会においては、理事長、副理事長をはじめとする役員、事務局長をはじめとする事務局幹部職員が参画し、管理・運営、教育、学術、医療、経営など、法人・大学運営に関わる重要な課題について意見交換等を行っております。 当役員会懇談会では、学内における様々な課題について、予め、情報共有と理解の促進を図り、理事長のリーダーシップと、役員によるそれぞれの担当分野における指揮の下、中期目標、中期計画及び年度計画に掲げた取組を着実に達成するために開催しているところであります。
67	106	和田委員	平成25年度の申請件数(前年度比も含めて)を教えてください。	・申請延べ件数 467件 (第二期中期計画 数値指標実績)

頁	H25年度 計画番号	委員	質問事項	札幌医科大学回答
—	—	谷山委員	年度計画には記載が無いが、研究不正防止に関する取組を行っていただければ概要を教えてください。	<p>研究不正防止については、次の取組みを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院1年次を主な対象とした研修で、学長自ら研究倫理についての講義を行っている。</li> <li>・大学院医学研究科長が、指導教員に対して、研究不正防止の取組を要請している。</li> <li>・実験ノートの重要性を周知した上で、大学院生全員、研究生・教員の希望者へ札幌医科大学実験ノートは無償配付している。</li> <li>・大学院医学研究科で、2年次若しくは3年次の院生が各専攻長と他教室教員の前で、研究経過状況を報告する発表会を開催し、研究内容を吟味して不正防止の徹底を図っている。</li> <li>・大学院医学研究科長と保健医療学研究科長が、研究不正に対する相談について責任を持って対応することとしている。</li> </ul> <p>また、平成23年4月に「札幌医科大学における競争的資金等の使用に関する不正防止プログラム」を策定しており、平成26年2月に行われた文部科学省のガイドライン改正を受け、現在、本学の不正防止プログラムの改正に向けた作業を行っています。</p>

## 参考資料

- No.81 関係

札幌医科大学附属病院 組織図

- No.97 関係

平成25年度経営審議会における学外委員の発言について



## 経営審議会における学外委員の発言について

### ○ 平成25年12月11日（水）開催

#### （1）第1期中期目標期間に係る積立金の第2期への繰越承認について（協議・報告事項）

第1期中期目標期間の終了に伴い、第1期積立金47億6千7百万のうち、第2期において実際に活用できる積立金は目的積立金相当額の20億4千5百万円となる。

#### 【発言】

- ① 活用できる積立金は、第2期中期目標期間中に使用すれば良いのか、また年度別に使用する額が定められているのか。（吉澤委員）

#### 【説明】

- ① 第2期全体に繰り越されるので、年度別に使用する額が決まっているということではない。また、第2期で残余がでた場合は、知事の承認を経て、さらに次期へ繰り越すことも可能。（島本理事長）

#### （2）平成25年度決算（損益）見込みについて（協議・報告事項）

大学については、収益が81億6千1百万円、費用が81億3千8百万円となり、2千3百万円の利益となる見込み。

病院については、収益が229億8百万円、費用が229億6百万円となり、2百万円の利益となる見込み。

法人全体では2千5百万円の利益を見込んでおり、そのうち約8百万円が目的積立金相当になる見込み。

#### 【発言】

- ② 一度増えた経費を減らすのは難しいので下期も厳しい状況だと感じる。（水野委員）

#### 【説明】

- ② 看護師確保等のために看護師の給与などの経費が増加しているということもある。（島本理事長）

看護師の給与について、看護師の本給は変えずに、夜間看護等業務手当を増やすことによって全体の支給額を北大並みにしている。（平山副理事長）

### ○ 平成26年3月12日（水）開催

#### （1）平成26年度「年度計画（案）」について（審議事項）

平成26年度「年度計画（案）」は、126項目となっており、昨年度から新規が5項目、統合が2項目、取組実施済みなどにより削除が5項目となっている。

主な項目は、業務運営、財務内容、自己点検・評価、その他の分野では、自己収入の確保に努める取組み、運営費交付金の縮減など、今年度に引き続いて実施する取組みである。

#### 【発言】

- ③ オープンキャンパスを実施する理由は何か。（徳田委員）  
④ 医師の派遣について診療科目別診療科別かつ病院別の派遣数は何人か。（水野委員）

#### 【説明】

- ③ 優秀でモチベーションの高い学生の確保や、教育内容を理解してもらうためである。（島本理事長）

- ④ 派遣数については後日報告するが、札幌市や旭川市を除く、200床以下の公的病院において同一医療機関で5年以上勤務している勤務医の道外大学を除く卒業大学の割合は、札医大が5割、北大が3割、旭川医大が2割となっている。(島本理事長)

(2) 平成26年度予算(案)について(審議事項)

収入は、331億3千万円を見込み、うち、病院収入は、242億2千3百万円とし、前年度と比較して、10億6千4百万円の増となっている。  
支出も収入同様331億3千万円を見込んでいます。

【発言】

- ⑤ 診療報酬改定を見込んだ予算なのか、また診療報酬改定で課題となることはあるか。  
(水野委員)

【説明】

- ⑤ 26年度予算については、診療報酬改定を見込んでおり、現実的な予算となっている。  
また、今回も診療報酬改定本体分は消費税を除けばプラス改定であるため、収入増は見込まれるが、消費税増税に係る支出増への対応が課題となってくる。(島本理事長)

(3) 平成26年度組織機構改正について(審議事項)

教員組織、附属病院、事務局において職名の統一、課の統合等、3部制の廃止等を行う。  
機構外定数についても看護師等の増員により17名の増となる。  
また、技能労務職について退職動向に応じて減員を行う。

【発言】

- ⑥ 技能労務職について減員とあるが、技術の継承がうまくいかず大きな事故に繋がることが起こりうるが問題はないか。(水野委員)

【説明】

- ⑥ 技能労務職については、技術の継承の観点から支障のない職種について外部委託を進めている。(平山副理事長)

○ 平成26年6月18日(水)開催

(1) 平成25年度決算について(審議事項)

平成25年度決算の財務諸表、決算報告書、事業報告書の概要について説明。

【発言】

- ⑦ 利益幅は減少したが、キャッシュ・フロー計算書を見ると、投資にお金をかけていることがわかるので、将来につながる1年であったと思う。(水野委員)  
⑧ 病院収益増を上回る診療経費増となっているが、将来の見通しはどうか。(太田委員)

【説明】

- ⑦ なし  
⑧ 施設整備が始まる前に機器整備等を行ったことにより経費増となっているが、大きな整備は終わったので、26年度以降については、新たな経費増はあまり想定していない。  
(島本理事長)